

令和8年度 自己評価計画書

石川県立内灘高等学校						
重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判断基準 備考(時期・対象)
1 分かる授業の実践と主体性の育成 ICTの効果的な活用と協働的な学びの深化を通して、生徒一人ひとりの基礎学力向上及び主体的な学びを促進し、課題を見つけ解決する力を育むことで個々の進路実現につなげていく。	① 授業や朝学習等においてChromebookを活用し、Google for Educationの各種機能を効果的に取り入れた学習活動を推進する。あわせて、家庭学習の在り方を見直し、学習の質と量の向上を図る。これらを通して、生徒一人一人の個別最適な学びを実現するとともに、協働的な学びの充実を図り、基礎学力の定着・向上につなげる。さらに、その成果を進学・就職等の進路実現に結び付ける。 ② ③ ④ ⑤ ⑥	教務課 進路指導課	GIGAスクール構想に基づき、ICT機器を活用した公開授業を校内研修として実施し、教員の授業力向上に取り組んでいる。その結果、ICT活用の意識や実践は一定程度進んできている。一方で、生徒が生成AIを活用し、個別最適な学習機会を得られるようにするためには、教員の指導力をさらに高めていく必要がある。	【満足度指標】 授業等においてChromeBookやiPad等の情報機器が効果的に活用され、学習意欲の喚起につながっている。	「授業等において情報機器が効果的に活用されて学習意欲が高まった」と回答する生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。 授業アンケート (7月、12月／生徒対象)
			【満足度指標】 学力向上のために、授業の目標やねらいを明確にして、内容の説明や教材が工夫されており分かる授業が展開されている。	「授業の説明や教材が工夫されており、分かりやすい授業である」と回答する生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。 授業アンケート (7月、12月／生徒対象)	
			【努力指標】 生徒がICT機器を進路学習・総合的な探究の時間等に活用できるよう、個々に応じた進路指導を行う。	「ICT機器(Chromebook)を利用して自身の進路学習・総合的な探究の時間の学習ができています」と回答する生徒の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。 学校評価アンケート (7月、12月／生徒対象)	
			各教科において、科目の特性や生徒一人一人の習熟度に応じた課題設定に務めている。また、昼休みや放課後等に個別の学習指導を実施するなど、授業外においても生徒に寄り添った指導体制が定着している。一方で、課題設定については、実施が教員ごとの工夫にとどまっている部分もあり、教員間の連携を含めた組織的な取組が必要である。	【努力指標】 生徒個々の学習状況の把握や学力定着を図るために適切な質・量の課題を課すことができる。	「生徒個々の学習状況を把握し、学力定着を図る課題を課している」と回答する教員の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。 学校評価アンケート (7月、12月／教員対象)
			一部の生徒において、将来に対する目的意識や進路選択への主体性が十分ではなく、進路未決定者への対応が課題となっている。今後は、既存の進路行事や総合的な探究の時間における活動の充実を図り、生徒が「自己の在り方・生き方」を深く見つめ直す機会を一層拡充していく必要がある。	【成果指標】 進路ガイダンスや進路講話等を利用して、1年、2年における進学又は就職の希望未定者数を抑制する。	「進路希望未定者の割合を1年次は10%以下、2年次は5%以下とする」ことについて A いずれの目標も達成できた B 片方の目標を達成できた C どちらの目標も達成できなかった	Cは具体的な改善策を検討する。 進路志望調査 (5月、9月、1月／生徒対象)
			進路に関する情報収集や学習への取組に個人差が見られ、具体的な行動に結び付いていない生徒が一定数存在する。また、個に応じた進路指導については、さらなる充実が求められ、本人の進路希望の実現に向けた支援の在り方に課題が見られる。今後は、生徒一人一人の状況に応じた指導の一層の充実を図る必要がある。	【成果指標】 個に応じた進路指導を行い、本人の進路希望を実現した生徒の割合を90%以上とする。	進路希望を実現した生徒の割合を90%以上とする A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	Cは具体的な改善策を検討する。 進路実績

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判断基準	備考(時期・対象)
2 挨拶・人間関係づくりなどに留意した生徒指導や教育相談の実践 生徒の基本的生活習慣の確立を図り、規範意識を高めるとともに、18歳成人に向けて自己決定力を育む。	① 挨拶やマナーなど、良好な対人関係の基盤となる行動について具体的な指標を示し、全校的な生徒指導の方針として徹底する。あわせて、スマートフォン等の利用の在り方について、家庭でのルールづくりを促進するため、生徒及び保護者が主体的に考えることができるよう、情報発信の充実を図る。	生徒課 保健相談課 総務課 学年	担任を中心に学年・学校全体で生徒観察や情報共有を密に行う体制が整っており、いじめアンケートにおいても深刻な事案の報告は受けていない。今後はこの教員間のチームワークを基盤としつつ、いじめの芽を早期に摘み取る組織的な未然防止を徹底する。また、スマートフォン等に起因する誹謗中傷やネット犯罪への対応については、加害者・被害者双方を出さないよう、家庭との連携を一層強化していく必要がある。	【満足度指標】 生徒がいじめのない安心できる学校生活を送ることができる。	「学校はいじめに対しての取組や指導をしっかり行っている」と回答する生徒の割合が A 90%以上 B 80%~89% C 70%~79% D 70%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。	学校評価アンケート (7月、12月/生徒対象)
	②			【努力目標】 家庭において、スマートフォン等の使用ルールについて話し合う機会を作るよう、働きかけをしていく。	「家庭において、半年に1度、スマートフォン等の使用ルールについて話し合い、SNSトラブル回避を行った」と回答する保護者の割合が A 60%以上 B 50%~59% C 40%~49% D 40%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。	学校評価アンケート (7月、12月/保護者対象)
	③			【努力指標】 生徒の探究心を引き出す効果的な導入手法や指導プロセスについて、教員間での研究・共有を組織的に推進する。	課題探究について「自分の将来につなげるテーマを考えた」とする生徒の割合が A 70%以上 B 60%~69% C 50%~59% D 50%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。	学校評価アンケート (12月/生徒対象)
	④			【満足度指標】 生徒は本校に進学して良かった、保護者は進学させて良かったという満足度が一層向上している。	「本校に進学して(させて)良かった」と回答する生徒・保護者の合計の割合が A 80%以上 B 70%~79% C 60%~69% D 60%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。	学校評価アンケート (7月、12月/生徒・保護者対象)
3 地域社会とともにある学校づくり 地域とともにある学校を目指し、学校ホームページ等を通じて積極的に情報発信を行うとともに、同窓会や地域との連携の充実を図る。	① 積極的な情報の発信と収集に努め、進学や就職した卒業生や地域の教育資源等を利活用して、生徒の地域社会への参画意識を高める。	総務課	同窓生の多大なご協力のもと、年に2回の社会人講話や同窓生による就職試験前の模擬面接を行っている。事後の生徒アンケートにおいても好意的な回答が多い。今後は生徒が地域のために自分ができることを考え、自ら行動できるような機会を増やしていく必要がある。	【努力目標】 同窓会や地域との連携に基づくイベントや行事を通して、生徒の地域社会への参画意識を高める。	「同窓会や地域との連携を実感した」と回答する生徒の割合が A 70%以上 B 60%~69% C 50%~59% D 50%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。	学校評価アンケート (7月、12月/生徒対象)
	②			【努力目標】 年2回の避難訓練に加え、保護者や地域住民と連携した防災体験学習を実施し、生徒の防災意識と実践力を向上させる。	「定期的な訓練と情報共有で安全な学校環境の構築に努め、防災教育に貢献した」と回答する教員の割合が A 90%以上 B 80%~89% C 70%~79% D 70%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。	学校評価アンケート (7月、12月/教員対象)
	③			【努力指標】 学校ホームページやお知らせの充実等により、各ニーズに応じた学校の取組についての情報発信を行う。	「情報発信が効果的にされており、学校の教育活動が理解できる」と回答する保護者の割合が A 90%以上 B 80%~89% C 70%~79% D 70%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。	学校評価アンケート (7月、12月/保護者対象)
	④			【満足度指標】 生徒は本校に進学して良かった、保護者は進学させて良かったと満足度を一層向上する。	「本校に進学して良かった」と回答する生徒・保護者が A 80%以上 B 70%~79% C 60%~69% D 60%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。	学校評価アンケート (7月、12月/生徒・保護者対象)

4	教職員の多忙化改善 組織的な連携とICT活用で業務効率化を図り、教員が創造的な教育活動に注力できる環境を整備する。	①	教頭	教職員の意識向上により、時間外勤務の削減に向けた計画的な業務遂行が定着しつつある。一方で、教員数が限られていることから、特定の分掌や主任等に業務が集中している実態があり、課内での共通理解に基づく適切な業務分担が課題となっている。今後は各課・各学年における校務の効率化と情報の共有化を徹底することで、組織的かつ持続可能な業務改善を推進する必要がある。	【成果指標】 各自が効率よく業務分担を図り、時間外勤務の縮減に努める。	「担当業務においてタイムマネジメント意識を高め、効率的な業務と協力体制の構築により、時間外勤務の縮減につながった」と回答する教員の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。	学校評価アンケート (7月、12月／教員対象)
		②			【努力指標】 各課主任や学年主任が担当課において、業務の効率化に積極的に取り組んでいる。	「デジタル技術を活用し、業務の効率化を図ることについて積極的に取り組んでいる」と回答する主任の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。	学校評価アンケート (7月、12月／主任教員対象)